

6/23 NPO法人 埼玉消費者被害をなくす会 第18回通常総会および記念講演を行いました



埼玉会館にて、第18回通常総会を開催しました。今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、規模を縮小し、実出席は理事・監事のみとし、正会員は書面または委任状での議決参加としました。オンラインで会員8人が参加、理事・監事、事務局含め24人が出席しました。池本誠司理事長によるあいさつの後、吉川尚彦専務理事から議案の提案があり、議案審議後の採決では全議案可決承認されました。

※表決権総数123個中、実出席13個、委任3個、書面92個、108個(採決時)

総会終了後には、「株式会社ディー・エヌ・エー訴訟判決の影響」および「株式会社ZERUTA訴訟判決報告」の特別報告、「特定商取引法及び預託法の改正について」と消費者庁主催の検討会で検討されている「消費者裁判手続特例法の改正に向けた課題」についての講演が行われ、会場24人、オンライン21人が参加しました。



あいさつする池本理事長

なくす会総会オンライン画面(会場のようす)

佐藤弁護士による特別報告

6/29 第1回組合員学習会

エネルギー基本計画の見直しに関わる 環境・エネルギー問題の現状と課題について学習しました



Zoomによるオンライン開催で、東京大学未来ビジョン研究センター教授 高村ゆかりさんに、「これからのエネルギーとエネルギー政策のあり方を考える」と題してお話いただきました。4生協73人が参加、講演のあとは活発な質疑応答がされ、最新の環境・エネルギー問題の現状について理解を深めました。参加者からは、「難しい問題をわかりやすく解説してくださり、ありがとうございました」「今のエネルギーのあり方や社会のあり方、原子力に依存しない温暖化対策は可能であること」「多くの企業が2050年カーボンニュートラル実現に向かって動いていることがわかった」など、多くの感想が寄せられました。



参加者のようす (Zoom画面)

講師の高村ゆかりさん



埼玉県マスコット「コバトン」

写真ニュース

県内生協の活動を写真で伝える情報誌

2021
夏号
No.78
(2021年7月発行)

Top News

6/24 埼玉県生活協同組合連合会 第50回通常総会 2021年度事業計画および役員選任など すべての議案が承認可決されました



埼玉会館にて、代議員定数43人中43人(実出席11、書面出席32、委任出席0)が出席し、開催しました。今回の通常総会も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面での出席を基本とするなど出席者の安全確保を優先して運営しました。埼玉県知事大野元裕様からメッセージをいただき、来賓として、JA埼玉県中央会専務理事小池和明様、埼玉県地域婦人会連合会会長柿沼トミ子様よりごあいさついただきました。次に、吉川尚彦会長理事が第1号議案から第5号議案まで一括提案し、5人の代議員からの発言、議案討議のまとめを経て、採決をおこない、全ての議案が承認されました。総会終了後、第1回理事会が開催され、会長理事に吉川尚彦が互選されました。なお、今総会では書面議決証で議決を行った代議員7人がオンラインで視聴参加しました。

第1号議案	2020年度事業活動報告、決算報告、剰余金処分案決定の件
第2号議案	2021年度事業活動計画・予算決定の件
第3号議案	定款の一部変更の件
第4号議案	役員選任の件
第5号議案	役員報酬額決定の件



あいさつする吉川会長理事

埼玉県農業協同組合中央会 小池専務理事

埼玉県地域婦人会連合会 柿沼会長

発言する久野代議員(埼玉大学生協)



議案提案する吉川会長理事

全議案承認可決されました





会員生協の取り組み

広がる県内生協の多彩な活動



生活協同組合コープみらい

公益社団法人埼玉県看護協会に 3,000万円を贈呈しました



目録と組合員・役員からの応援メッセージをお渡ししました。
前列中央から新井理事長、中央右 永井副理事長、前列右 大山埼玉県本部長(当時)

コロナ禍で地域医療を支え続けている医療機関および医療従事者の皆様を支援するため、4月6日(火)、(公社)埼玉県看護協会(さいたま市)を訪問し、3,000万円を贈呈しました。2020年度は、多くの組合員にたくさんのご利用をいただいたことから、予算を超える剰余金(利益)を確保できたため、今回はその一部を「社会への貢献」として千葉・埼玉・東京の看護協会、医療生協へ合計1億4,730万円を寄付しました。

生活協同組合パルシステム埼玉

【オンライン】 庄内田植え配信&交流会を開催



5月21日(金)、オンラインで庄内田植え配信&交流会を開催しました。毎年、産直産地である庄内産直ネットワーク(JA庄内たがわ・庄内協同ファーム)と産地交流を行なっています。今回は山形県庄内地方より田植えの様子を配信し、生産者と組合員のオンライン交流会を行いました。生産者5人、組合員12人、役員5人の計22人が参加しました。

交流ではお米の栽培に関する取り組みや生産者の一押しの商品などをお聞きし、参加者からは庄内への思いが伝えられました。

埼玉県勤労者生活協同組合

「ひまわりプロジェクト」に 取り組んでいます



東日本大震災の復興支援の一環としてNPO法人シャロームによる「ひまわりプロジェクト」への参加を毎年呼びかけています。福島から全国にひまわりの種を送り、収穫した種を福島に送り返し種を絞ったものを、ひまわり油として販売しています。収益は仮設住宅への支援や福島の子どもの県外保養プログラムの運用など支援活動の運用資金として大切に活用されています。

こくみん共済 coop〈全労済〉

子どもの健全育成の取り組みを 行いました



寄贈および目録贈呈
(左:金井本部長/右:フードバンク埼玉 永田理事)

子育て世代の支援として、こども食堂への食糧提供に力を入れている「特定非営利活動法人フードバンク埼玉」へ未使用食品73点の寄贈と当会の事務局内で募った募金32,483円を寄附しました。また、次世代を担う子どもたちとそのご家族等への支援を目的に、教育評論家・親野智可等氏による『次世代を担う子どもたちに必要な力』と題した講演動画を限定配信しました。

生活クラブ生活協同組合

第4期よりそいサポーター 養成講座を開催しました

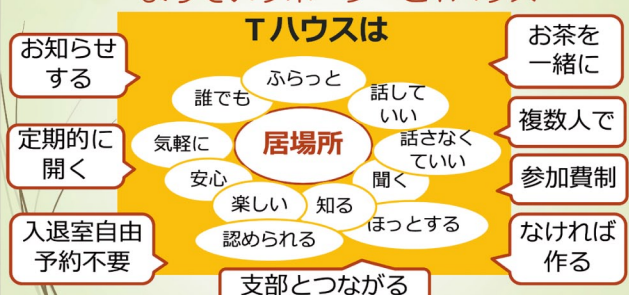


子どもから高齢者まで誰でもが集える地域の福祉拠点「Tハウス」(たすけあいのTとお茶のTをとった場所)を今後地域に増やしていくため、話を一緒に聞き、共に考えていく「よりそいサポーター」(生活クラブの資格)の養成講座を実施しました。オンラインと実参加で、あわせて39人のよりそいサポーターが新たに誕生しました。



講師の日本傾聴能力開発協会 JKDA 影・irodori の村尾リエさん

よりそいサポーターとTハウス



生活クラブ埼玉が行う福祉政策Tハウスとよりそいサポーターの意味について

医療生協さいたま生活協同組合

保健教室「だれもが健やか“百寿”教室」 開校しました



保健教室は、医療生協の健康観や健康づくりに役立つ知識・技術を専門職から学び、ヘルスリテラシーを高めることで健康な暮らしのあり方を見つめなおす場です。コロナ禍でも、小さい単位で密にならず、短時間で行うなどの工夫で、6月に開校しました。『地域子育て応援教室』、『子ども保健教室』、『健康づくりデビュー教室』と「だれもが健やか“百寿”教室」の4つの世代別カリキュラムで、楽しく学んでいます。

埼玉大学生生活協同組合

学生支援企画「メリンちゃんスペシャルカレー」を提供しています

コロナ禍によりアルバイトなどの収入が減少し、食生活を無理に節約せざるを得ない学生に対して、無料で食事を提供し、応援するイベントを埼玉大学のご協力のもと実施しています。埼玉大学の学生はコロナ禍であってもリモート授業、新型コロナ感染対策を行った対面授業など、密を回避する制限の中、学業に取り組んでいます。本イベントはそのような困難な状況にある学生を応援したい!寄り添いたい!少しでも元気づけたいとの坂井貴文学長の熱い思いから実現したものです。



食事支援プロジェクト(メリンちゃんスペシャルカレー)



案内ポスター



引換券を配布しました



配膳を待つ列



カレーを食べる学生たち